

(様式)

平成 28 年度 新技術導入経営改善実証展示ほ 成果情報

飼料用米「月の光」安定栽培法の確立

要約

飼料用米「月の光」について、穂肥を施用した試験区と全量基肥の対照区で収量を比較した結果、対照区と比べ 53 kg/10a 多収となった。「月の光」の施肥は、全量基肥よりも基肥窒素 8.4 kg(ホル14)、穂肥窒素 4 kg(NK202)/10a が良好であった。経営収支は、試験区が増収分 901 円/10a 増益し、経費は、燃料費、労賃が増加したが肥料費が安くなり 1,176 円/10a 少なくなった結果、2,077 円/10a の所得増となった。

○ 展示のねらい

飼料用米の多収技術を実証し、所得比較による経営改善効果を検討する。

(kg/10a)

	基肥肥料名	基肥の窒素施用量	穂肥 (NK202) の窒素施用量	窒素施用量の合計
試験区	ホル14 (14-14-14)	8.4	4(出穂前19日)	12.4
対照区	飼料米専用211 (20(8)-10-10)	10	—	10

※飼料米専用211: 窒素速緩比12:8。緩効成分8%内訳は、セラコトリア90日タイプ4%+シグモイド110日タイプ4%

○ 主な成果

・試験区は、追肥を行うことで 53 kg/10a の増収効果が得られ、プラス 2,077 円/10a の経営改善効果があった。

収量調査

	全重 (kg/10a)	精粳重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)	備考
試験区	1,988	955	936	793	739	54	水分15
対照区	1,970	888	1,001	740	713	26	%換算

※精玄米重は粒厚1.85mm以上、くず米重は粒厚1.85mm未満

経営収支

(円/10a)

項目		試験区(追肥区)	対照区(ひとふり区)
粗収益	生産物	13,481 (+901)	12,580
	交付金	122,000	122,000
	計	135,481 (+901)	134,580
経費	肥料費	7,030 (-1,637)	8,667
	光熱動力費	2,913 (+28)	2,885
	支払労賃	1,340 (+432)	908
	その他	43,648	43,648
	計	54,931 (-1,176)	56,107
所得		80,550 (+2,077)	78,473

※ ()内は対照区との差

今後の方向性

追肥は収量が増えるため、指導資料、講習会、現地検討会等で指導する。また、更なる所得増を目指しコスト低減を図るため、栽植密度を検討する。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：矢板市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315